

## 令和4年度第2回瑞浪市図書館協議会会議録

■日 時：令和5年2月9日（水）14時から15時30分まで

■場 所：瑞浪市民図書館 1階 研修室

■出席者（名簿順・敬称略）

《委 員》井上典子、岩島留美子、小栗茂、湯原定雄、永江美年子、水向裕樹、遠山みゆき  
《事務局》指定管理者（特定非営利活動法人こまどり会）：早川美幸（瑞浪市民図書館長）  
社会教育課：奥谷ひとみ（課長）、山路雅子（課長補佐兼係長）、榊原勝哉（主事）

■欠席者（名簿順・敬称略）

《委 員》岩島哲也  
《事務局》指定管理者（特定非営利活動法人こまどり会）：安藤昇（理事長）

■内 容

### 1 開会

（会長あいさつ）前回は学校と図書館の連携という課題も出て、新たな視点に気づくことができた。それぞれの立場で率直な意見を出し合うことが委員の責務だと思う。

### 2 議題

#### （1）各委員の今年度の活動状況について【情報共有】

委 員：公民館で12月にクリスマスコンサートを行った。語りとピアノと絵で物語を語る内容で、70名の参加があった。静止画でも語りと音楽を聴いていると心の中で物語が動いているように思った。会場がしっとりとした雰囲気になり、物語を動画ではなく言葉で聴くことの力、言葉の大切さを感じた。

委 員：図書館ボランティアとしてブックスタート、図書の宅配、「おはなしのじかん」で読みかかせを行っている。ブックスタートとは、4ヶ月健康診査時に読み聞かせ等を行い本の大切さを対面で伝え、絵本2冊とトートバッグをプレゼントするもの。4ヵ月の子どもがじっと話を聞いてくれることに感激する。今まで一度も泣かれたことがない。ボランティアをやっているとよかったと感じる。後日そのトートバッグを持って図書館での読み聞かせ来てくれる方も多い。地道な活動の大事さを感じる。図書の宅配では1か月に1度ボランティアが選んだ図書を宅配している。現在の利用者は少ないとのことだが、これも地道で大事なボランティア活動だと感じている。「おはなしのじかん」では、0～2歳児の子どもを対象にボランティアが選んだ紙芝居や絵本を親子に読んでいる。こちらも4～6か月の子が泣かずに聞いていてくれ、喜びを感じる。もっとたくさんの人にこうした活動を知ってもらい、多くのボランティアに来ていただけるとうれしい。

委 員：PTA活動ではノーメディア週間を定め、テレビ・ゲーム・タブレットのメディアから離れてどれだけ読書や勉強をできるか目標を定めて行っている。本以外のものが多すぎて本を読む習慣がなくなってきたため、本を読むことの楽しさを伝えていかないとどんどん本から離れてしまう。

委員：園児を連れてくるには距離があるため、図書館とはあまり関わりが持っていない状況。コロナ禍では図書館職員に絵本の消毒等の取扱いを電話で教えていただいた。市にある施設なのでもっと活用させていただきたいと思う。幼稚園では毎週木曜日を家族ふれ合いデーとして、折り紙や絵本等で家族のふれあいの場を作るよう啓発し、絵本の活用も勧めている。3～5歳児は毎週絵本を1冊借りる。コロナ前は親子で選んでいたが、滞在時間縮減のため今は保育士と選んでいる。楽しみにしている子が多い。毎月1回地域のボランティアに絵本の読み聞かせをしていただいている。本が大好きな子どもが増えていくといいと思う。

委員：あさってから中央公民館文化祭が始まる。図書館からもリサイクル本のコーナーを作っていたら、本の世界へ誘っていただくことになっている。先日、他市へ版画コンクールの審査に行った際、読みきかせで聞いた話の場面に基にした年長児の版画があった。物語の特徴が作品に現れており見事だった。読みきかせの時間が大事にされ、そこからうまく作品制作に引き寄せていく大人の役割は大切であると改めて思った。

委員：駅北複合公共施設に関しては自分の周囲ではまだまだ認知度が低く、図書館という施設の必要性をもっと周知していけるとよいと感じる。働いていた頃、保健センターで妊娠中のお母さんに読み聞かせをしたことがある。おなかの中でもお母さんの声が聞こえるので、赤ちゃんがおなかにいる時から読み聞かせをすると良いと教えていた。与える側の勉強も必要。今の保育士は教える側の勉強をしているか。

委員：コロナ禍で研修はあまりできていない。毎日1～2冊絵本の読み聞かせをしている。

委員：好きな本ができると1冊の本を大事にし、何度も読み返すことがある。自分の好きだった本の思い出を親子に伝えることの必要性も感じている。

委員：学校図書館の役割として、生徒と図書館の距離を縮めること、図書館という場所の敷居を下げるのが大事だと思う。大人になる前に本と親しんだ経験や図書館を利用したこと、司書を頼ったことがあると、大人になってから図書館を利用したいと思い、本離れを防ぐことにもつながると思う。そのために魅力的な本を揃える選書の他、生徒のために展示、イベント、ディスプレイは毎月変更し、遊び心で来館記念の御朱印、特別な会員カード、面白い利用案内、季節のミニイベント等を企画し、図書館という場所に親しみが湧くよう、新鮮味や変化が常にあるよう工夫している。教職員や図書委員との連携、岐阜県内の図書館司書が集まって会議研究をする場に参加し、岐阜県全体で学校図書館の質の向上を図っている。

## (2) 令和5年度市民図書館管理運営業務計画(案)について

(事務局より資料1に基づき説明)

委員：昨年度は作家の講演会があったが、来年度は講演会を計画しているか。

事務局：予算や準備等の都合上、大きな講演会は2年に1度としている。

事務局：学校や幼稚園との今後の連携強化に向け、ご意見をいただきたい。学校はブックトーク、幼稚園は保護者会に参加しているが、校長会や園長会、学校の図書館担当部会でも1年の計画を話す機会を設けることは可能か。ブックトーク以外でも協力体制がとれるのではないかと考えている。

委員：校長会、園長会がよいと思う。年度初めよりは少し落ち着いた5月に実施できるとよい。

### (3) 駅北複合公共施設における瑞浪市民図書館のあり方について

#### ①開館時間について（事務局より資料2、資料4、資料5に基づき説明）

会 長：開館時間は利用者にとって重要な問題。3人ずつのグループに分かれて自由に話していただいた後、意見交換をしたい。

（グループ1の意見）

委 員：小学生から大学生は学校帰りの夕方に集中することが想定される。高齢者や一般の方で平日の朝9時頃から利用したい方もいると思われる。どこのニーズに合わせるかが問題。スタッフのローテーションを上手く組んで、平日に関しては駅利用者を考慮すると21時頃まで開館されるとよいのでは。土日に関してはそれほど遅くまで開館しなくてもよいと思う。朝9時から18時頃までがよいのではないか。

（グループ2の意見）

委 員：駅近くという立地を考慮し、駅をよく利用する高校生や通勤者がいつ帰宅するか、時間帯の統計を取りながらよくリサーチして考えてほしい。限られた職員を有効に配置する必要がある。貸出返却システムの機械化による合理化も必要。電車を降りて本を選んで借りることを考えると20時から21時が最終くらいかと思う。朝は忙しいので立ち寄らないと思うが、閉館時間を遅くすることは必要かもしれない。複合施設全体で開館時間を合わせた方が利用も増えると思う。

会 長：駅の近くという立地がポイントになる。瑞浪駅から帰る人、瑞浪駅へ帰ってくる人を考えると平日は19時でなく20時から21時まで開館したほうが便利ではないかというご意見が多かった。ただ、ご意見にあったとおり、働く職員のことを考えると業務の効率化・合理化なしには実現できないと思う。現在、平日の18時から19時の利用者数と18時までの利用者数の変化はあるか。

事務局：17時30分頃から減っていき、19時には誰もいない時がある。

委 員：現在、利用者数が一番多い時間帯はいつか。

事務局：保育園が隣にあるため、保育園が終わる16時から16時半に多く、少し波があって仕事終わりの保護者が迎えに来る18時頃が多い。午前中では11時から12時に高齢者や在宅者の利用者が多い。

事務局：ご意見を伺い、やはり立地は重要な点になると感じた。賑わい創出を目的とした複合施設であることを考えると、仕事から帰って立ち寄ろうとしたときに閉まっているのは残念。現状より拡大の方向で、かつ、機械に手助けしてもらいながらいかに効率よく人を配置していけるかという視点も踏まえ、今後の協議を進めていきたい。

#### ②駐車場料金について（事務局より資料3に基づき説明）

会 長：駐車場に関しては、建物内へのアクセスのしやすさや安全面等の様々な課題があるが、ここでは料金を徴収すべきか否かに焦点を当てて、グループで協議してほしい。

（グループ1の意見）

委 員：駐車場に入る車は基本的には有料でいいと思うが、図書館利用者は無料にすべき。図書館利用者が図書館を出る際に駐車料金が無料になるようなシステムを取り入れれば明確に分かる。ただし、図書館利用者を全て無料とすると、図書館から出て他の場所に行った時間も含め

て無料になってしまうため、図書館の入館から退館の時間とそこから車に戻るまでの10分程度を無料にするような仕組みがよい。名古屋等の駐車場でよく見かける機械のように、清算してから何分間は無料とすれば出庫時に慌てなくて済む。全て無料にするのではなく、図書館利用に関してのみ明確化するのがよいと思う。

(グループ2の意見)

委員：グループ1の意見と同様。駅北の駐車料金は安価な設定でよく利用している。今まで無料だった図書館の駐車料金を有料にするのは市民感情からするとおかしいと思う。市民のために作った施設なら100円も出させるべきではないと思う。今は車両番号で通過できるシステムもある。悪用する人が出ないような機械を導入すべき。

事務局：今の協議の中で、図書館の利用時間は全て無料とするのか、一定時間までは無料とするのかといった無料の範囲について何か意見が出たか。

委員：より多くの市民に利用していただくためには、ある程度の時間制限は必要だと思う。

委員：現在の総合文化センターの駐車場は、利用者以外でも駐車しているのが現状。それをいつまでも許容し続けるのはいかがなものか。ある程度の時間制限を設けることは妥当だと思う。

委員：平日は駅北の駐車場は満車になる。先日のバサラカーニバルでは車を止められなかった。これは料金以前の大きな課題。イベント時に収容台数を大きく上回る最悪の場合を想定して検討を進めていただきたい。

委員：メイン駐車場の他に周辺に第2・第3駐車場をあらかじめ準備し、周知する必要があると思う。

事務局：利用者の立場により、駅利用者のための駐車場だと認識する人、施設のための駐車場だと認識する人、捉え方は様々だと思う。施設でイベントを行う際、駐車場が駅利用者ですでに埋まっているという状態は避けなければならない。

委員：子ども連れやベビーカー、シニアの方等が建物の近くに駐車できるか懸念する声もある。建物内へアクセスしやすい場所に駅利用者が早い時間帯から駐車してしまうと施設利用者が困る。

事務局：いろいろなパターンを想定し、ルール作りをしていく必要があることを認識した。

委員：駅北・駅南間の人の流れがスムーズになることが非常に大事。予算の制約上、跨線橋を簡単に作ることはできないにしても、人の流れがスムーズになる筋道を工夫しないと施設が点在してしまうことになる。

会長：アクセスの問題はこの施設の決定的な条件になると思う。高校生が立ち寄りやすいかどうかという視点も重要となる。